



2020年度 大学入試制度改革について

校長 鈞持 利行

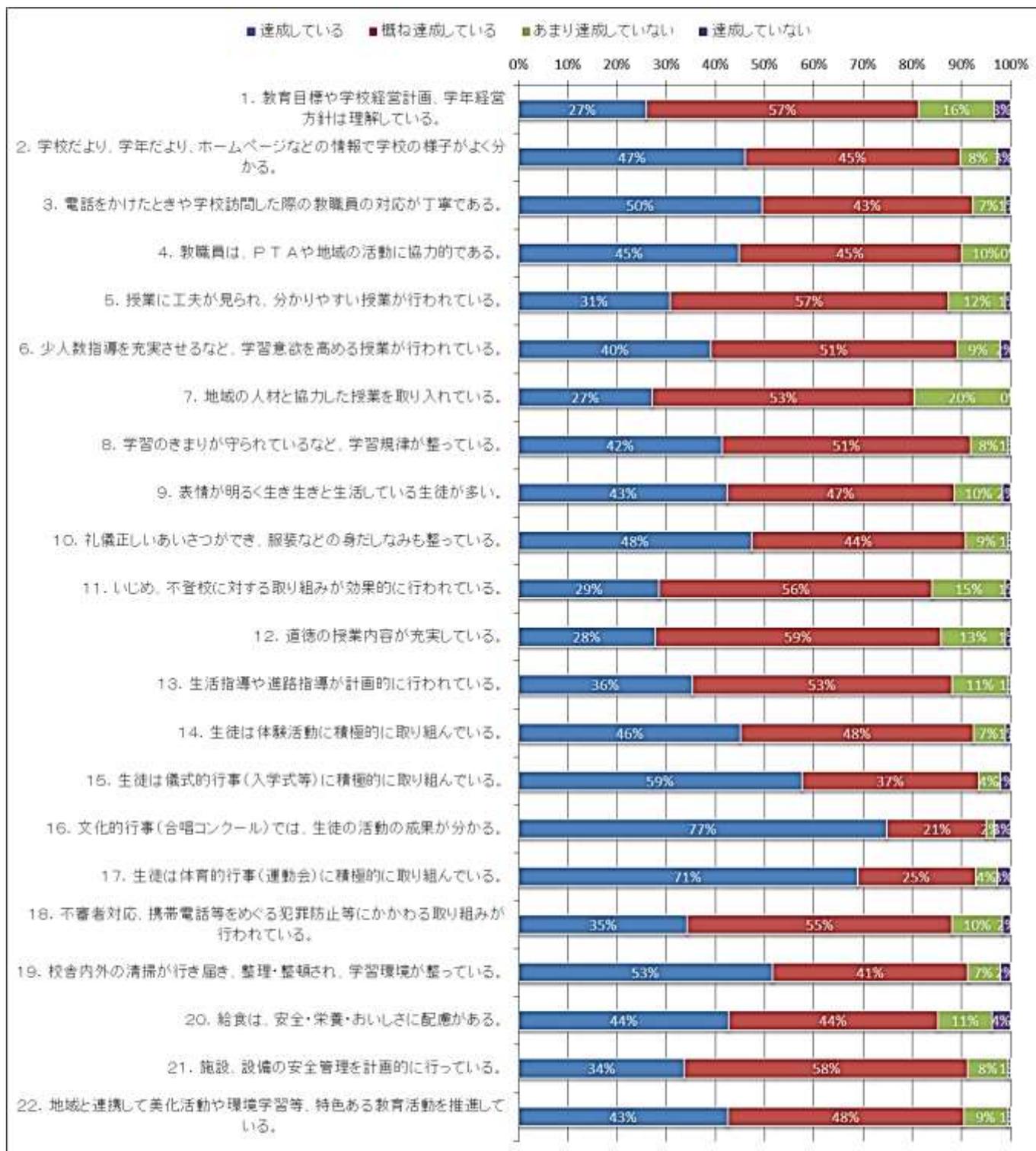
現在の大学入試の象徴でもある「センター試験がなくなる」という話を聞いたことがある方も多いでしょう。「センター試験」は2020年1月の実施を最後に廃止して、新しいテスト「大学入学共通テスト」を導入することが文部科学省から発表されています。したがって、新しい「大学入学共通テスト」で受検を向かえるのは、今の中学3年生からとなります。なぜ、こうした改革が行われるのでしょうか。これは、国の将来に対する強い危機感によるものです。現代社会は先を見通すことが難しく、今の小学生や中学生が大人になる頃は、現在とは社会や職業が大きく変わっている可能性があります。中教審の答申では、アメリカの大学教授の「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」という予測が紹介されています。たしかに、今では当たり前のように使われているインターネットや携帯電話が、急速に普及してきたのはここ20年ほどの出来事です。それ以前に今の世の中を想像することが出来た人は少なかったでしょう。ITの発達に伴って、社会や仕事の在り方も変わりましたし、かつては存在していなかった職業も多く登場しました。今後、日本の将来を見据えると、急速に少子高齢社会を迎えます。それに伴い、生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、産業構造や就業構造の転換、地方創生等への対応が求められます。国際的にはグローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興といった変動が起こっています。このような先の見えない状況のなかで、自ら問題を発見し、他者と協力して解決していくための資質や能力を育む教育が必要であるという考えがベースとなっています。そのため、新テストの導入にあたっては、「知識・技能」だけでなく、大学入学段階で求められる「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するという考えがベースにあります。現在、そうしたテストとなるよう出題内容について検討が進められています。一般的に「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する問題を多く出題すると、テストの難易度は上がる傾向にあるといわれています。現在、高松中学校では、今年度のまとめをするとともに、来年度に向けての準備を進めているところです。こうした社会状況の変化にも対応できる教育活動についても、検討を深めています。

「大学入学共通テスト」の概要

名称	大学入試センター試験	大学入学共通テスト
実施年度	～2019年度	2020年度～
日程	1月中旬2日間	1月中旬2日間
出題教科・科目	6教科30科目	センター試験と同じ ※2024年度～は簡素化を検討
出題形式	マークシート式	数・国で記述式を導入 ※2024年度～は地公・理も導入検討 【国語】・80～120字程度を3問程度 ・出題範囲は古漢除く「国語総合」 ・マークシート問題とは別の大問 ・試験時間100分に延長 【数学】・「数I」「数I・A」で出題 ・数Iの範囲を3問程度 ・マークシート問題と混在の出題 ・試験時間70分に延長
英語	2技能(Reading,Listening)を評価	4技能を評価、民間の試験を活用 民間試験の受検は高3の4～12月に2回まで 2023年度までは民間試験と共通テストの英語を併用(大学が利用方法を指定)
成績結果・提供方法	・各科目1点刻みで採点し合計点を提供 ・国語は「近代以降の文章」「古文」「漢文」の3分野を別々に成績提供	・マーク部分は現行より詳細情報(設問・領域・分野ごとの成績、段階別表示などを検討)を提供予定 ・国語は一括提供を検討 ・英語はCEFRの段階別評価 ・記述式は段階別評価(3～5段階)

※2017年7月 文部科学省「大学入学共通テスト実施方針」より

平成29年度 学校評価アンケート集計結果より



2学期に行った保護者による学校評価アンケートへのご協力並びに多数のご意見、ありがとうございました。各項目をみると概ね、良い評価をいただいているところですが、課題とすべき点も多々ございます。皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、今後の高松中の教育活動に生かしてまいります。